

1 めん羊及び山羊のBSE対策の見直しに係る評価対象（素案）

2
3 厚生労働省から、めん羊及び山羊の牛海綿状脳症（BSE）対策の見直しについ
4 て、食品健康影響評価が要請（諮問）された。

5
6 これを踏まえ、食品安全委員会プリオン専門調査会は、めん羊及び山羊におけ
7 るプリオン病の人への感染について検討した。

8
9 現時点までに、野外で確認されているめん羊及び山羊のプリオン病は、スクレ
10 イピー及びBSEである。めん羊及び山羊におけるこれら疾患の感染実験の知見
11 及び疫学的知見をまとめると以下のとおりである。

12
13 スクレイピーに関する実験では、ヒト PrP を発現するトランスジェニックマ
14 ウスやサルを用いた研究において、脳内接種ではスクレイピーの伝達がみられ
15 たとの報告、伝達がみられなかったとの報告、いずれの報告もある。一方、経口
16 投与でスクレイピーの伝達がみられたという報告はない。

17 疫学的知見では、これまで数世紀の間、スクレイピーはめん羊及び山羊で発生
18 してきたが人への健康影響を示唆する報告はない。

19 BSEに関する実験では、BSE感染牛の脳乳剤を用いためん羊及び山羊への経
20 口投与において、BSEの伝達がみられたとの報告がある。また、BSEに感染し
21 ためん羊又は山羊の脳乳剤を用いた、ヒト PrP を発現するトランスジェニック
22 マウスへの脳内接種において、BSEの伝達がみられたとの報告もある。

23 さらに、山羊ではBSEの野外発生が2例報告されている。なお、牛のBSE
24 は食品を介して人に伝達する可能性のある人獣共通感染症と考えられている。

25
26 以上を総合的に考慮し、食品安全委員会プリオン専門調査会は、現時点では、
27 めん羊及び山羊の肉及び内臓等の摂取に由来するスクレイピープリオンによる
28 人の健康への影響は考え難いと判断した。このため、食品安全委員会プリオン専
29 門調査会における評価対象は、人への健康影響の可能性が示唆されているめん
30 羊及び山羊におけるBSEとすることとした。